

国

語

(解答番号

1

～

31

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えなさい。

教育は、「卓越」に意義をおく点で、本源的に不平等な結果を生み出す営為である。しかし、教育を受けることで、教育を受けない場合よりもより多くの知識やスキルを誰もが獲得する。労働市場においては、教育を受けた者同士が「市場能力」を競い合つて相対的な競争状態になる。受けた教育は、市場における交換価値を持つことになる。労働市場では、自分だけが低い教育を受け、他の者が低い教育のみにとどまることが、最も好都合である。また、ある仕事のポストを争う他の者が相対的に高い教育を受けていれば、自分が受けたそれより低い教育は市場能力としては無価値になる(つまり採用されない、ということ)。^A交換価値としての教育は、不平等を「市場能力」という形で実体化させ、正当化する。

しかし、人間が商品化されない領域では、すなわち交換価値ではなく使用価値の領域では、受けた教育がすべてポジティブな意味を持つ(持ちうる)。市民の^aな領域、親密圏の領域、自分の内面との対話の領域、など。公共領域や親密圏では、もし自分だけが低い教育を受けて、他の人たちが低い教育にとどまっていたとしたら、それは自分にとってもマイナスになる。周囲が十分な教育を受けていないと、愚かな政治的世論に巻き込まれることになる。親密圏においても同様である。自分だけが高度な知識や教養を身につけていても、誰にもわかってもらえず、つまらない対話に包囲されることになってしまう。だから、適切な政治的判断を行い、充実した人間関係を享受するためには、自分だけでなく他者にも十分に教育を受けてもらうことが必要だしユウ^(ア)エキである。さらに、使用価値としての教育は、市民の活動や民主主義の質を向上させることで、不平等を是正させる力にもなり得る。

この場合の「自分」と「他者」は^bである。つまり「誰もが」ということである。誰もが卓越した教育を受けることが、当の社会のみんなにとってプラスになる、ということである。実は、戦後まもなくの時期の「教育機会の均等」理念は、民主的で文化的な社会の形成を目的としていた点で、以上のような意味が込められていたのではなかったのか。

もちろん、^B「すぐれた教育に平等にアクセスしうる」というときの「しうる」は、「する」ではない。「能力に応じて、ひとしく」

（憲法第二六条）というときの「能力」とは、この「しうる」と「する」との調整のための言葉（にすぎない）と考えればよいのではないか。——こう考えると、少なくとも、生まれた家庭や地域によって卓越した教育に平等にアクセスしうるチャンスがあらかじめ不利にさせられたり、あるいは排除されたりしてしまわないような、可能性を閉ざさない制度作りが必要だと言えるのではないだろうか。

学校教育の役割を、人がこの世界について広く深く知り、考えることができるようになるための場とみなすという私の考えは、現実ばなれした夢想に見えるかもしれない。しかし、教育基本法や学校教育法、学習指導要領などに盛り込まれている多くの事項は、実は、そういう理念や理想である。進学準備に特化した教育の日常のあり方や入試の形式・内容がそういう理念や理想を棚上げにしてしまってきたから、軽視されてきているだけである。

C 個人と社会の経済的効用のために（のみ）学校があるという見方を相対化する必要がある。「われわれは過剰に教育の経済的な目的や機能に焦点を当てすぎてきている」。確かにそう思う。経済的効用だけでなく、市民形成や優れた文化の継承・発展など、多様な目的や機能を持つものとして学校教育の役割をとらえ直す必要がある。

もしも学校教育が、人間を手段——生産手段——という狭くジュー（イ）ソクした地位に押し込めていくだけの役割しか果たさなかったら、矛盾や難題に満ちたこの世界を人々が自らの手で作り変えていく可能性は閉ざされてしまうことになる。学校教育は、人間が自分や自分が住むこの世界のことをもっと知り、多様な形でこの世界に関与できるようになるための装置としての役割を果たす必要がある。それは、コミュニケーションや文化享受の基礎、社会の能動的な形成者の育成や社会連帯の基礎など、「労働力の脱商品化」のための装置として学校教育が機能すべきことを意味している。

特に私が重視しているのは、政治や経済のシステムを自分たちの手で制御する、賢明で **c** な市民の創出の役割を学校教育に期待することができないか、ということである。格差の問題も、突き詰めれば経済次元の問題としてではなく、市場を制御する政治の次元の問題として位置づけることができる。格差の拡大を憂えて福祉国家再編の道をモ（ウ）サクする新川敏光は、「今日貧困の問題は、富の絶対量の不足ではなく、分配にある。トリクルダウン効果（上層の潤いが下層へとこぼれ落ちる）なるもの

が、たとえあったとしても、最底辺層では喉の渇きを潤すに足りない僅かなものにすぎない。市場による分配は、多くの人々の生存権を脅かし、社会的公正を損なうものとなっている。このような状況のなかで、再分配はキツ^(E)キンの課題となっている」と述べる。ではどうすればよいのか。新川が期待していることの一つは、政治である。「自由権が法の下の平等を実現するとしても、いやむしろそのことによって経済における非対称関係(不平等)を維持・再生産・正当化するのに対して、参政権の確立、民主主義政治の実現は、経済的非対称関係を政治的に是正する機会を提供する」と。

経済的な格差や不平等の問題を、学校教育による社会移動では改善できないとすると、それとは別の道として、学校教育にもともと期待されていた「市民形成」という目的を、改めて評価する道があるのではないだろうか。

もともとみんなが社会の現実に向き合い、よりよい社会の構築に向けて考え、議論し、行動するような社会になれば、さまざまな問題にはもつとましな選択がなされるのではないか。誰もが目の前の仕事だけに汲々とする社会ではなく、もつと多くの人たちが、もつと幅広くこの世界のことを知り、考え、行動することができるようになるために、学校教育は貢献することができる。税金の使い道について考えたり、労働法制やブラック企業について考えたりすることもできるし、環境問題を考えたり、平和の問題を考えたりもできる。新川がいう再配分のあり方の見直しについていうと、もつと賢明な市民たちが増えてきたとき、その選択は変わるかもしれない。いずれにせよ、目の前の社会を「自然」で d なものとみるのではなく、新しい世代自身が民主主義の担い手になって、自分たち自身で社会のあり方を決めていけるようにする、という点が重要なのではないか、と私は考えた。

産業構造の変化の中で、きわめて生産性の高いごく一部の仕事と、高度の熟練を必要としない多くの低賃金の仕事とが二極分化していつている。誰もがみんな「よい仕事」につけるわけではない。だからこそ、どういう雇用や再分配のルールを持つ社会にするかといった課題を、専門家や政治家に白紙委任してはいけない。また、目の前の仕事の中にはない、地球環境が抱える深刻な問題やグローバル資本主義の制御の問題に、利害のトウ ^(オ) ジシヤや専門家だけが取り組めばよいわけでもない。目の前の世界の外にある地球規模の深刻な課題に、もつとみんなが関与していく必要もある。

近年の政治で強まっている強力なリーダー待望論や、既得権集団を攻撃するルサンチマンの政治は、既存の不正なルールの是正や再配分への希求の高まりとも読むことができる。しかしながら、①民主主義的な市民としての行動は投票以外には何も行わないで、カリスマリーダーに期待を寄せるだけ、②改革案の内容を適切に判断することもないままそのカリスマリーダーに白紙委任してしまう、という点で、二重に政治的主体性を喪失してしまっている。

われわれは、D「民主主義のための教育」という、手垢のついた考えにもう一度光を当ててみる必要があるのではないか。一人ひとりが競争の中で生き残るための教育ではなく、人と人とのこの世界について議論を交わし、対立したり連帯したりしながら、新しい社会を作っていく——そのために学校が果たしうる役割の可能性を再評価してみたいと考えたわけである。すべての子どもが「賢い市民」として振る舞えるようになるとは思えないけれども、すべての子どもに「賢い市民」になってもらうことをめざす教育をすることはできる。

(広田照幸『教育は何をなすべきか』より。文章一部省略)

(注) ルサンチマン——恨み。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号

は 1 5。

(ア)

ユウエキ

1

- ① 強制的にロウエキをさせられる。
- ② ムエキな戦いをしてはならない。
- ③ コウエキを盛んにする。
- ④ 空港のケンエキを強化する。
- ⑤ エキシヤを建て直す。

(ウ)

モサク

3

- ① 作文をテンサクしてもらう。
- ② 彼はサクシだ。
- ③ サクインを付ける。
- ④ トウサクした振る舞い。
- ⑤ 会心のサクだ。

(オ)

トウジシヤ

5

- ① 母のジアイ。
- ② ジギにかなった催し。
- ③ スイジを担当する。
- ④ シュクジを述べる。
- ⑤ 事故をジダンで解決する。

(イ)

ジユウゾク

2

- ① ゾクジに入りやすい話だ。
- ② ゾクトを処罰する。
- ③ 事物のゾクセイを調べる。
- ④ キンゾク表彰を受ける。
- ⑤ 敵のゾクチョウと和睦する。

(エ)

キツキン

4

- ① ソツキンの人物に裏切られる。
- ② キンセイのとれた肉体。
- ③ 心のキンセンにふれる。
- ④ 牢獄にカンキンされる。
- ⑤ キンシュク財政を保つ。

問2 空欄

a

d

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。
ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a— 6、b— 7、c— 8、d— 9。

- ① 能動的 ② 公共的 ③ 個人的 ④ 宿命的 ⑤ 互換的

問3 傍線部A「交換価値としての教育は、不平等を『市場能力』という形で実体化させ、正当化する」とはどのようなことか。そ

の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 10。

- ① 人間の能力を金銭と交換できるものと考え教育は、他より優れた能力を身につけることで、よりよい仕事に就けると
いう根拠のない幻想を若者に与える、ということ。
- ② 人間の使用価値を交換価値に変えることを目指す教育は、人間を商品化したとしても、それによって市場で優位に立
てらるならば、それは正しいと主張する、ということ。
- ③ 就職に有利な能力を価値として植え付けようとする教育は、能力を得た者がよい企業に就職できたことを誇示し、教育
自体が不平等であることを隠蔽する、ということ。
- ④ 商品としての価値を与える教育は、他より高度な教育を受けたことは実際の仕事の能力と対応するとし、教育のもたら
す差異も個人や社会に必要なだと考える、ということ。
- ⑤ もともと人間の持つ価値や能力は不平等であると考え教育は、その価値や能力に応じた就職を実現させることで、自
らの考えが妥当であることを示す、ということ。

問4 傍線部B『すぐれた教育に平等にアクセスしうる』というときの『しうる』は、『する』ではない」とあるが、これはどのようなことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

11。

- ① 「しうる」という表現は、「する」というような誰でもが自然とそうなる状況を表すのではなく、個々の選択の余地があることを示唆している、ということ。
- ② 「しうる」という表現は、「する」というような意志により確実に行える状態を表すのではなく、あくまでも可能性を示しているだけである、ということ。
- ③ 「しうる」という表現は、「する」というような積極的な行為のあり方を表すのではなく、教育に対する消極的態度を暗示している表現である、ということ。
- ④ 「しうる」という表現は、「する」というような何の努力も要らないことを表すのではなく、厳しい困難が待ち受けていることを示している、ということ。
- ⑤ 「しうる」という表現は、「する」というような容易に現実化される事態を表すのではなく、そうならばよいという願望を示したものである、ということ。

問5 傍線部C「個人と社会の経済的効用のために(のみ)学校がある」という見方を相対化する必要がある」とあるが、筆者がこの

ように言うのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号

は 12。

① 学校教育が、人間を、ものを生産する手段としてのみ捉えるならば、人間は誰とでも代替可能な機械的な存在となり、個々の能力に応じた可能性を見出す契機を失うことにもなりかねないから。

② 学校教育は、教育を受ける者に市場での価値を付与するためにこそあると考えるなら、世界についての認識を深め世界の変革にも貢献する市民を生み出すという教育本来の目的が損なわれかねないから。

③ 学校教育が、経済的利益を目的とする組織としてのみ存在するならば、学生もまた経済的な価値こそが第一義的だと考え、自らの市場能力を向上させることだけを追い求めるようになるから。

④ 学校教育は、能力の高い人間を育て、その能力で社会の経済状況の改善を目指すのだと考えるならば、仮に経済格差が縮小しても、一部の人間が社会を動かすという非民主的な状態になるから。

⑤ 学校教育が、個人的な交換価値を高めるためにのみ行われるならば、他より高い交換価値を身につけた学生だけが優遇され、機会均等という教育の普遍的理想が棚上げにされてしまうから。

問6 傍線部D『民主主義のための教育』という、手垢のついた考えにもう一度光を当ててみる必要がある」とあるが、筆者がこ

のように考えるに至った社会的な背景として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 現代の学校教育が、人間の持つ商品としての側面のみを重視したものになっていること。
- ② 格差問題が政治的な問題ではなく、経済的な問題であることを人々が理解していないこと。
- ③ 市場による富の分配は人々の生活を不安定化させ、公正さを損なうものになっていること。
- ④ 不平等の問題は、教育を受けて社会的地位を変えらるということによつては改善できないこと。
- ⑤ 社会の課題を、投票によつて政治家らに委ねるだけで、人々が政治的主体性を失っていること。

問7 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

14。

- ① 新しい世代が自他の隔たりを取り去り、互いが個人的な主張を抑制し他者との協調を重視しながら今後の社会のあり方を決めていくのは、重要なことだ。
- ② 貧困の原因は、その社会に富自体が乏しいという事実に加え、その富をどう分けるかということに対して、識者が再検討を提言しないことにもある。
- ③ 自分だけが高い教育を受けることは決して自分を有利にすることにはならないが、そのことに気づくために、若者は今いる領域を抜け出す必要がある。
- ④ 人々が強いリーダーを待望するのは、自分で物事を判断することを放棄し、すべてをリーダーに委ねようとする依存的な態度以外の何物でもない。
- ⑤ たとえ期待通りの結果が出ないとしても、誰もが社会のことを熟考し行動しようとする人間になってほしいと思い教育を行うことは可能はずである。

第2問

次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えなさい。なお設問の都合で段落の冒頭に番号が付してある。

① 路線図をながめていたら、一回の乗り換えで家の近くまでたどり着けることがわかったので、仕事の帰りに山手線の駅からはじめてのバスに乗ってみることにした。

② 始発だったし、まだ夕方のラッシュに差しかかるまえだったから、ならんでいるひとの数もそれほど多くはなく、これなら楽に座れるだろうと思っていたのだが、いったいどこを見ていたものか、列は乗車口をはさんでむこうとこちらの双方に伸びていたようで、ふつうならどちらが先かで小競り合いでも起きそうなどころなのに、このバスの日常的な利用者のあいだでは暗黙の了解があるのだろう、X、ひとりが乗り込むと反対側からひとり乗ってきて、たがいちがいにステップをあがっていくのである。

③ これに類した光景になら、以前にも出くわしたことがある。ただそのときは片方から二人、三人、四人とつづけて乗っていくのを、なぜか誤った方向に列をつくってしまったらしい人々が申し訳なさそうな顔で割り込んでいたというのが真相で、入場行進、またはフォークダンスさながら、ふたつの列が相方を認識しつつ向かい合い、融合していくなんて、公共交通機関の乗り降りではなにかと攻撃的になることの多い都市では、まことにめずらしい。

④ ともあれ、私が想像していたよりはるかに乗客は多くて、期待していた座席はつぎつぎに埋まっていき、ひとりがけの席で景色を楽しもうという計画はあつというまに崩れ去った。空いていたのは最後部の、ながい椅子が一本置かれた座席というより観客席のみとなり、しかたなく右の窓側を選んで腰を下ろすと、小銭を出すのに手間取っているお母さんを置いて、小学校二年生くらいの男の子がやってきた。左側はもう押さえられていて、空席は私の隣と通路を正面から見下ろす玉座だけである。男の子は迷わず私の隣に陣取り、お母さんを中央の席に招いた。

⑤ さらに何人かの客が乗り込んできたところでバスはごろごろと喉を鳴らして動き出し、ほどなくすると、左隣に座っていたA 未来の王様は、大事に持っていた手提げ鞆からお絵かき帖を取り出して、なにやら描きはじめた。先のとがった鉛筆だったら、

バスが揺れたときあぶないので注意しようと思っていたのだが、画伯は手が汚れないよう柄をティッシュでくるんだ茶色のクレヨンを迷いなく走らせている。

6 乗り物で隣り合ったひとが本を読んでいて、それがちらりと目に入ったりすると、私はなにか大変な秘密を覗き見た気になって落ち込んでしまう。よく高校生がびっしり書き込みのある参考書や蛍光ペンのあとが天の川みたいに光っているノートをひろげているけれど、手書きの文字は携帯電話のメール画面などより生々しいからいつそう始末が悪い。

7 窓の外をながめながらも、カーヴで身体が揺れるたびにちらりと眼下のお絵かき帖が目に入り、そのたびに私は心のなかで、**B**ごめん、と謝る。しかし、何度かそれを繰り返すうち、見えてしまったものについて、どうしてもあれこれ感想を述べたくなってきた。画伯の茶色いクレヨンは、不安定な膝小僧などものともせず、着実になにかを描き出す。停留所ふたつにひとつの割合で絵が増えていく。

8 上手だなあ。とうとう我慢できずに、私は画伯に声をかけた。これは、牛乳パックだよ。うん。箱についてる牛のマークがいいねえ。それからこの眼鏡をかけたおばさんは、学校の先生かな？ あたり。これは、灰皿。そう。これは算数のノート？ そう。これが犬で、隅にあるのはロウソク？ うん。じゃあ、これは、なに？ ニンジンと納豆のセット。そいつはすごい組み合わせだ、と私は唸って、玉座のお母さんに目を移すと、彼女は疲労困憊こんぱいの体で、バッグを抱えたまま静かに

Y

9 好きなものがいっぱいあるんだね。画伯に小声で言うと、彼は即座に、ちがう、と応えた。ちがうよ、これ、みんな嫌いなもの。

10 一瞬、言葉に詰まった。嫌いなものばかり、しかも楽しそうに描いて、どうするつもりなのだろう。こういうときは、素直に質問してみるのが得策だ。消すの、と彼は即答した。好きでないもの、苦手なものを描いて、おまじないをしながら、ばつ印を打つ。するとこの世からなくなる。友だちにそう吹き込まれたらしい。じゃあ、お母さんの疲れを消してあげたらどうかな？ 画伯は空きスペースにタコを描き加え、下を向いたまま問い返した。でも、疲れて、どういうかたち？

11 ふたたび言葉に詰まった。そのとおりだ。疲れにかたちはない。疲れて眠る玉座のお母さんを描いたら、疲れだけではなく、

お母さんまで消えてしまうだろう。なるほどなあと感心しつつ、最後の空きスペースに画伯が小うるさいおじさんの顔でも描きはしないかと ^C びくびくしながら、私はようやく窓の外に視線を逸らした。

(堀江敏幸「疲れのかたち」『象が踏んでも 回送電車Ⅳ』所収より)

問1 空欄

X

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は

15

- ① まったりとコーヒーとミルクが溶け合うみたいに
- ② もくもくと順番が来るのを待つ食堂の行列客みたいに
- ③ ぺろんと開いたファスナーが閉じていくみたいに
- ④ だらりと垂れ下がっている暖簾^{のれん}が絡まるみたいに
- ⑤ きらりと光る二つの宝石が各々自己主張するみたいに

問2 空欄

Y

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は

16

- ① 舟を漕^こいでいた
- ② 眉を落としていた
- ③ 音をあげていた
- ④ 肩を落としていた
- ⑤ 溜飲^{りゅういん}を下げていた

問3 傍線部A「未来の王様」とあるが、筆者がこのような表現をしたのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の

① ～ ⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17。

- ① まだ幼い子どもであるのに、立ち居振る舞いに何か人を寄せ付けない威厳めいたものを感じさせたから。
- ② 手間取る母を置いて、一人で堂々と正面を見下ろす席に陣取る様子を少年とは思えない風格を感じたから。
- ③ まだ少年ではあるが、母を招き座った席がバスの全体や正面を見下ろす王様の座る席のようだったから。
- ④ 母のために席を取り、母を座らせてあげようとする優しい様子が、立派な大人になるのを予感させたから。
- ⑤ まだ子どもなのに、絵の才能もあり、大人びた考え方をするなど、将来大物になりそうな予感がしたから。

問4 傍線部B「ごめん、と謝る」とあるが、筆者が「謝」ったのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選びなさい。 解答番号は

18。

- ① 乗り合わせた少年に興味を抱き、話しかけたいという気持ちを持ち、鉛筆を出したら危ないと注意しようと思ったが、それができなかった代わりに、少年の絵に対してあれこれ感想を言いたくなってしまったから。
- ② 他人が読んでいる本を見てもその人の重大な秘密を見てしまった気になり落ち込んでしまう筆者は、描いた人間をより直接感じさせる少年の絵を目にし、見てはならないものを見てしまったかのように感じたから。
- ③ クレヨンでティッシュでくるむ神経質な少年の様子を見て、何かこの少年の心の中に隠されているものを見てしまったように思い落ち込んでいたが、その一方で少年の絵を見たいと思う気持ちを抑えかねていたから。
- ④ 少年の絵の中に少年の秘密を見てしまったと感じ、後ろめたさを感じ見ないようにしようと思うものの、そこに描かれているものにどんな秘密が隠されているのか、どうしても聞きたい自分を抑えかねていたから。
- ⑤ 少年の絵を見るたびに他人の心を覗いているような気がして、見てはいけないと自分を戒めるのだが、それでも見たくなり、車の揺れを利用しながら少年の絵を盗み見していることに対して後ろめたさを感じたから。

問5 傍線部C「びくびくしながら」とあるが、筆者はどうして「びくびくし」たのだと考えられるか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

① 嫌いなものを描いて消すとこの世からなくなると話す少年の独創的な発想を面白く思ったが、自分も少年の嫌いなものの一つなのではないかと思ったから。

② 少年の質問に言葉を詰まらせた自分は、少年の言葉に感心しているのだが、何も言わなくなったことで少年に嫌われ消去されるのではないかと思ったから。

③ 少年と話をするうちに、少年の絵の大変な秘密を知ってしまった自分を憎らしく思いはじめ、嫌いなおじさんとして絵に描きはしないかと心配になったから。

④ 少年にあれこれと話しかける内容がとんちんかんであるために、自分は少年に嫌われて絵に描かれ、最後には消されてしまうのではないかと思ったから。

⑤ 嫌いなものを楽しそうに描くという風変わりな少年の気持ちが理解できず、少年の質問にも答えられなかった自分は嫌われたのではないかと思ったから。

問6 本文の表現や特徴についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。なお⑤～⑧は段落冒頭に付された番号を示す。解答番号は 20。

- ① ⑤には「画伯」という言葉が用いられているが、この言葉は、自分の絵の才能に対する自信ありげな様子を抑えようと、ユーモラスな雰囲気や文章に与えている。
- ② 比喩を多用している前半部と違い、⑥以降では比喩表現は用いられていないが、そのことが、筆者と少年とのやりとりに現実感や緊張感を与える効果をもたらしている。
- ③ ⑥にある「手書きの文字は……いつそう始末が悪い」という表現には、「手書きの文字」と同様、少年の絵を見るべきではなかったという後悔の念が示唆されている。
- ④ ⑧では、「上手だなあ」、「いいねえ」など、ほめ言葉が多く出てくるが、これらは本心からではなく、少年の絵を見てしまった後ろめたさを隠すための表現である。
- ⑤ ⑧では、地の文と会話文を分けずに書いているが、それが読みづらさを感じさせる面もある一方、筆者と少年とのやりとりにテンポのよさを与えている面もある。

問7 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は

21。

- ① 筆者の乗ったバスは意外にも混んでおり、窓外の景色を見ようという当初の思惑は結局かなえることができなかった。
- ② 少年の意外な言葉に二度も言葉を詰まらせた筆者は、これ以上少年と話をするのは分が悪いと考えて黙ることにした。
- ③ 筆者が乗ったバスでは、人を押しのけてでも、となりやすい都会の交通機関では希有なほど整然とした乗り方が見られた。
- ④ 筆者は始め母親を置いて席に座った少年によい印象を持たなかったが、最終的には少年が母親思いの子どもだとわかった。
- ⑤ 参考書のような中身のわかるものはよいが、他人がよくわからない本を読んでいると隠し事を知った気分になってしま

う。

第3問 次の問い(問1～3)に答えなさい。

問1 次のA～Cの語の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 22 24。

A ジャーナリズム

22

- ① 視覚文化 ② 報道活動 ③ 時事問題 ④ 情報分析 ⑤ 政治批評

B 禁忌

23

- ① コスモス ② メタファー ③ ペナルティ ④ コード ⑤ タブー

C パラダイム

24

- ① 思考の枠組み ② 科学の進歩 ③ 社会の風潮 ④ 各時代の特色 ⑤ 哲学的な真理

問2 次のA～Cの空欄に入れるのに最も適当なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は

25

 ～

27

 。

A

--

 盆にかえらず

B

--

 をあらわす

C 去る者は

--

 にうとし

27

26

25

- ① 頭角 ② 面目 ③ 覆水 ④ 衣鉢 ⑤ 日日

問3 次のA～Dの作品や事柄に係る人物を、後の①～⑤のうちからそれぞれ一人ずつ選びなさい。

解答番号は

28

 ～

31

 。

A 当世書生気質

B 若菜集

C 旅愁

D 道程

31

30

29

28

- ① 幸田露伴 ② 高村光太郎 ③ 横光利一 ④ 坪内逍遙 ⑤ 島崎藤村